



駅伝クラブの活動を通して、子どもにつけたい力！

1 やりぬく力を育てたい！

1月27日(土)に開催された五條市駅伝大会に参加するために、1月上旬から大会前日まで、練習を重ねてきました。今年は、6年生から3年生まで、総数26名の児童でクラブを設置しました。

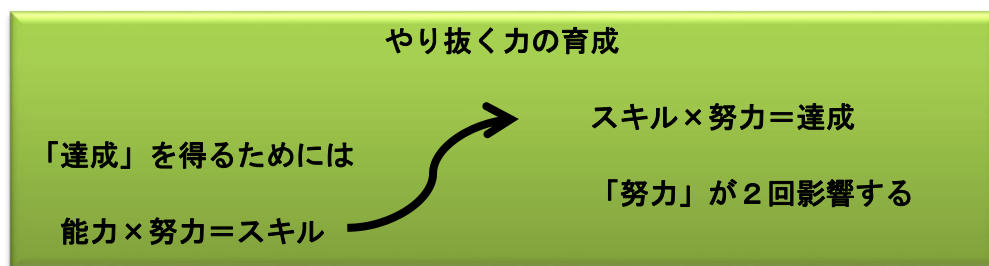
このクラブ活動の設置目的は、「やりぬく力」を育てることにありました。大会当日は、選手として登録した全員が完走しました。児童一人一人が「やりぬく力」を付けつつあることを実感できる活動となりました。保護者の方にもご協力いただき感謝申し上げます。



2 やりぬく力とは！

「やりぬく力」は「情熱」と「粘り強さ」のふたつの要素でできています。偉大な功績をあげた人物を調査してみると、「やりぬく力」を身につけているという研究の結果が示されています。「情熱」とは「ひとつのことにじっくり長いあいだ取り組む姿勢」を意味します。また、「粘り強さ」とは「目標を決めたら、守り抜き、障害にぶつかってもあきらめずに取り組む姿勢」を意味します。このことを「動機の持続性」と名付けられています。児童の学力、体力及び規範意識の向上(達成)に、「動機の持続性」が大いに関係しています。

では、「やりぬく力」の育成には、何が必要なのでしょう。それは、「努力」という行為です。それも「努力」は「二重」に影響します。駅伝クラブでの練習を例に説明すると、長距離を走るために必要な能力(呼吸方法、走り方等)を「努力」で、「意欲をもってかつ粘り強く」練習することが一つ目の「努力」です。ふたつ目の努力は「ひとつ目の努力で身につけたスキル」を練習によって、成績へつなげていく「努力」です。これを図に表すと以下ようになります。



家庭学習及び学校教育において、児童の「やりぬく力」をはぐくみ、その力を活用して、児童が高い志をもって夢をかなえるよう、取り組む必要があります。